

誰も実現できなかつた技術を開発し世界一 技研の挑戦の先に見える未来への架け橋



赤岡町にある圧入技術の情報発信基地 RED HILL 1967

現在、社会を取り巻く問題は様々である。豊かな自然に包まれた高知県でも、環境破壊や自然災害、少子高齢化による人口減少など地域課題が多く存在する。

私たちジビ工部は、鹿による森林の食害被害に対し、捕獲された鹿肉を商品化し、販売で得た利益を寄付という形で陸の豊かさを守り抜く活動に貢献している。環境保全と森林の再生につなげる取組は、簡単ではないが確かに一歩につながっていると感じる。

7月29日(火)高知県に本社を置く株式会社技研製作所を訪問し、これから機械開発と社会問題

との関わり方について話を聞くことができた。ここで私たちは、地域の課題を考える上で大切なことに気がついた。

技研製作所は、圧入技術を活かした建設機械を自ら開発してきた会社だ。国内だけでなく海外にも技術を提供し、工事を受注している。実際にオランダでは、世界遺産の運河沿いにある老朽化した護岸を同社の機械で補強することに成功した。他にも40以上の国と地域で、この技術が採用された。まさに「世界の技研」と呼ばれる存在である。

音を大きく抑えながら杭を打ち込む「サイレントパイラー®」の開発は、建設業界に大きな革命をもたらした。住宅地などで工事がやりやすくなり、環境への負担を減らすことや、工期の短縮、コスト削減もつながっている。さらに現在では「地上に文化を、地下に機能を」というコンセプトのもと、地下空間を活用した駐車場や駐輪場の建設や、現在問題視されている南海トラフ地震への対策として、「インブランチ工法®」を提案し、防災インフラ整備に貢献している。また月面での「宇宙建設革新プロジェクト」において、建設研究開発(R&D)を継続しているという。次々と新しい技術を

挑戦を続ける姿勢と課題

未来は挑み続ける人の手で



ものメッセKOCHI2025
第14回高知県
ものづくり総合技術展

2025年(令和7年)
11月15日
土曜日

発行所
高知市立
ジビ工部Cチーム

協力
株式会社高知新聞社

号外

取材の様子はコチラ!
ものメッセ
KOCHI2025



教えて!
澤田 晶斗さん



担当してくださった澤田さんには、このこと働くことのあれこれを聞きました。

「お仕事編」

Q 企業が抱える課題や

A 一般的にまだこの技術を認知している人が少ないことが課題です。PRする場所を設けてよりたくさん的人に認知してもらえてるよう頑張っています。

「未来・メッセージ編」

Q 最後に高校生に何か伝えたい

A 学生のうちにしか経験できないこともたくさんあるので、チャレンジしていくこと。人としての引き出しを増やせるようにチャレンジ精神を忘れないようにして欲しいです。

Q 仕事のやりがいは何ですか?

この「挑戦する姿勢」は当部の活動にもつながる。高知の伝統を守りながら、日曜市活性化、高知の歴史を再発見してもらうため、土佐の偉人とジビ工を掛け合わせた商品開発に挑戦している。街の伝統的景観を維持しながら、技術開発で次世代の社会を創る同社と、鹿肉を商品化し販売することで、陸の豊かさを守る当部。「見違う分野だが、『挑戦を続けることで未来社会に貢献していく』という思いは同じだ。挑戦に終わりや正解はない。技研製作所は技術で社会を支え、私たちは鹿肉の利活用を通じて森を守る。未来は挑み続ける人の手によつて切り拓かれる。

Q 技研製作所の魅力は何ですか?

A オンリーワンの技術で、他のところではできない技術を提供できるこ

編集後記

今回「株式会社技研製作所」の皆様にご協力していただき取材をしました。社会問題の解決には強い刺激を受けました。社会問題の解決には誤と挑戦を重ねることで、様々な可能性の扉が開けていくのだと学びました。私たちジビ工部もまた変わり続け、挑戦し続けます。挑戦を続けることが、未来につながる力になると学んだ



高知商業高等学校
ジビ工部 Cチーム